

～ 菌類の「華」キノコを巡る ～



枯死したコナラに着床したシイサルノコシカケ。背着生で前面から孢子を飛ばす。

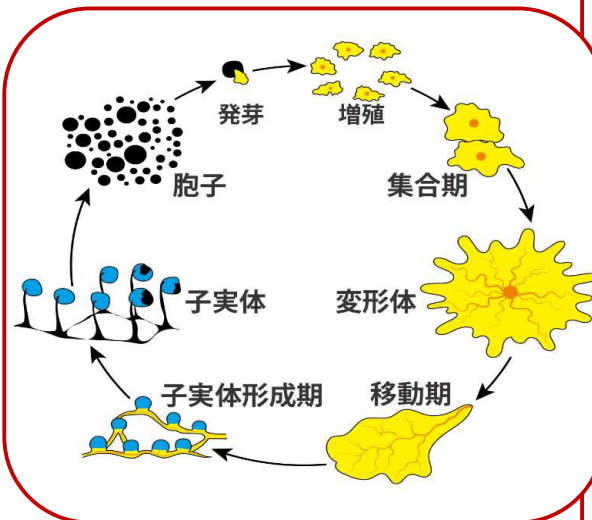
キノコとは
地中もしくは木やその他の栄養源の中で生育する孢子より発芽した菌糸が本体。盛んに枝分かれしながら成長する。太さは1mmの数十分の1から数百分の1。菌糸同士が結合し「キノコ」と呼ばれる子実体(しじつたい)を形成する。
キノコは植物でいうところの実であると言える。子実体は写真のような菌糸の塊である。

右の写真: 下記URL①「きのこのからだ/日本きのこセンター」より



粘菌は
孢子から発芽したアメーバ(単細胞)が集合し、よく相生山でも見られるドロツとした変形体(多核単細胞)となり、単細胞でありながら自律的に栄養となるエサを求めて移動する。捕食する栄養分が無くなったり、生息する環境が悪化して生命の危機を感じると「子実体」へと変化。孢子を飛ばして繁殖を試みる。
孢子は生育できる環境に行き着くまで、何年でもそのままの姿で生き永らえることができる。動物的(=移動して捕食)と植物的(=孢子で繁殖)性質を合わせ持つ。

中央の図: 下記URL②「粘菌の話/下村知範」より



キノコの生活様式いろいろ

☆菌根菌

樹木と共生関係を結び、樹木の根と菌糸がつながって、栄養のやり取りをする菌類。

★腐生菌

落ち葉や枯れた木材を栄養源にする菌類。

*「落ち葉分解菌」(モリノカバタケなど)、

*倒木や切り株などに生えて木材を分解する「木材腐朽菌」(ツキヨタケ, エキヨタケなど)に大きく分かれる。

*寄生菌

生きた相手に寄生して、一方的に栄養を搾取する菌類。

冬虫夏草が代表的。



枯れたマツの表皮に着いているヒトクチャケ



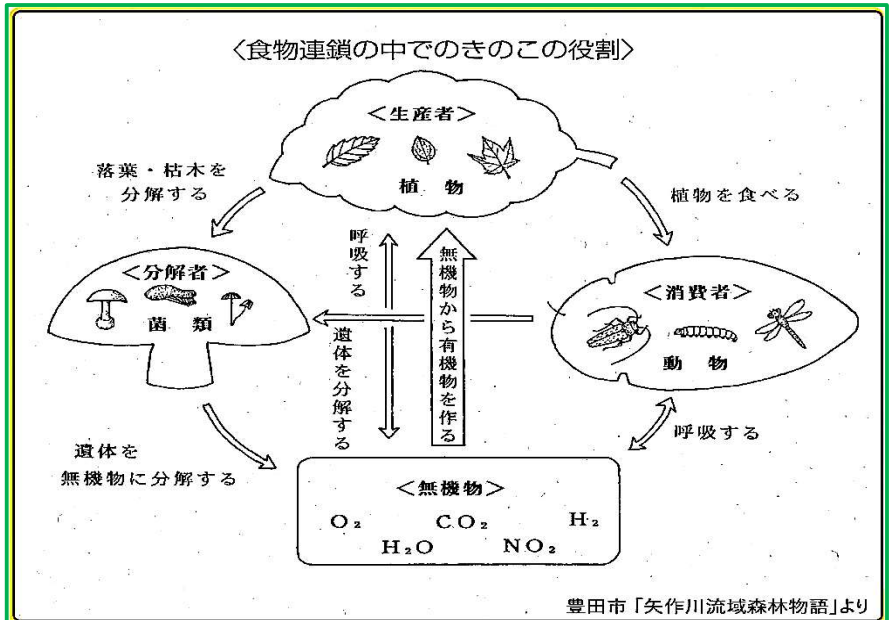
真正粘菌のススホコリ

冬虫夏草のヒメクチキタンボタケ(左)
宿主のキマワリ(下)



参照記事: ①キノコ <https://hyakka.kinokonet.com/about/122/>

②粘菌 <https://aightowa.com/archives/3718>



豊田市「矢作川流域森林物語」より

梅雨の森 夏に広がる



ヒメジョオン



サカキ



ネズミモチ

No	標準和名	漢字表記	科	比較	原産地	メモ
1	ヒメジョオン	姫女菀	キク	ハル(春)ジョオン	北アメリカ	
2	シロツメクサ	白詰め草	マメ		ヨーロッパ	牧草、根粒菌
3	オッタチカタバミ	おっ立ち片喰	カタバミ	カタバミ, ムラサキ(紫)カタバミ	北アメリカ	
4	ニワゼキショウ	庭石菖	アヤメ		米国	
5	オオバコ	大葉子	オオバコ	ヘラ(笹)オオバコ		咳止め、車前草、相撲取り草
6	ギシギシ	羊蹄	タデ	スイバ(蓼)		
7	ワルナスビ	悪茄子	ナス		米国	牧野富太郎
8	カラスビシャク	烏柄杓	サトイモ			半夏
9	ドクダミ	葎	ドクダミ			十薬
10	トキワツユクサ	常盤露草	ツユクサ	ツユクサ	南アメリカ	



オッタチカタバミ



ニワゼキショウ

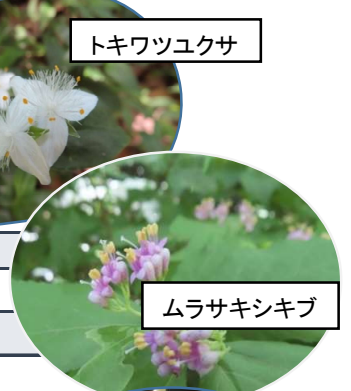


カラスビシャク



トキワツユクサ

No	標準和名	漢字表記	科	メモ
1	ムラサキシキブ	紫式部	シソ	落葉小低木, 対生, 裸芽
2	ネズミモチ	鼠麴	モクセイ	常緑低木, 対生, 類似: トウ(唐)ネズミモチ
3	クチナシ	山梔子, 口無し	アカネ	常緑小低木, 輪生, 色素
4	アカメガシワ	赤芽柏	トウダイグサ	落葉低木, 雌雄別株, 裸芽
5	ヤマハギ	山萩	マメ	秋の七種の苧, 落葉小低木, 「芽の木」
6	イソノキ	磯の木	クロウメモドキ	落葉低木, コクサギ型葉序
7	サカキ	榊	サカキ	常緑高木, 境木
8	モウソウチク	孟宗竹	イネ	花は60年周期



ムラサキシキブ



アカメガシワ



ナナフシ
モドキ
(七節擬)



クチナシ

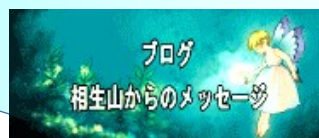


ヤマハギ

来月は 7月10日 9:30~
~ 水の気受けて 森の夏ふくらむ ~

ハギ・モッコク・シャシャンボ・イソノキ・ミスヒキ
・シロオニタケ・ヤマドリタケ・イグチ類・
スズメバチ・ナナフシモドキ・カブトムシ
元気な人は 午後も歩こう ~14:30 (予定)

ほぼ毎日 情報発信中!
自然と人 環境と未来
応援ヨロシク お願いします。



ブログ
相生山からのメッセージ

連絡先(古川)

tell/fax : 052-821-6463

ケイタイ : 080-5124-6463

email : viva_forest@yahoo.co.jp

ホームページ

ラブリーアース→検索